

活動の経緯チャート

里山保全体験を通じた 障がい者雇用促進を目指すプログラム事業

以前の活動	活動①エコロジーオンライン	活動②NPOここから	活動③飯山館	④フォレストデザイン
名称	オンラインによるコミュニティネットワーク	障がい者自立支援	里山活用による地域活性化	里山活用による保全活動
対象課題	ITオンラインでコミュニティを活性化	障がい者の自立支援	地域活性化	里山の保全と林業活性化
活動内容	ITネットワーク活用によるコミュニティ再生活動	精神障がい者の方の共同生活による生活援助、社会交流のための施設運営	飯山コンシェルジュ、街に居ながらの山や森の中へでの体験教室	森林整備、環境教育、間伐材活用等の活動を展開
活動成果	環境とコミュニティをベースとした他分野にまたがる様々なプロジェクトとアクティビティの創造	精神障がい者の方の共同生活による生活援助、社会交流による自立支援	地域への来訪者増、中山間地への親しみに寄与	奥信濃いいやま里山体験等環境教育プログラムの運営、「いいやま里の家」施設整備、丸太トーチログファイアー開発・生産・販売
連携先				
経緯	エコロジーオンラインが飯山の里山活用に着目し、関係者と「里山ウェルネス研究会」を設立、環境省「持続可能な開発目標(SDGs)活用した地域の環境課題と社会課題を同時解決するための民間活動支援事業」に選定			



[①森林保全のために間伐された木材利用が進まない②障がい者雇用支援の不足③冬の林家及び林業従事者等の収入減少]の課題対し里山ウェルネス研究会設立。環境省「持続可能な開発目標(SDGs)活用した地域の環境課題と社会課題を同時解決するための民間活動支援事業」に選定され、関係団体を組織化しログファイアー(間伐材活用の木ろうそく)などの間伐材加工に障がい者が参画する林福連携プログラムを開発し里山地方の地域活性化を図るモデルを創出することとした活動を推進。



2018年4月～2019年12月

里山ウェルネス

現在の活動	活動1	活動2	活動3	活動4
名称	事例調査と実証事業の実施(プログラム開発)	説明会・報告会の開催と情報発信	製品化検討企画会議と運営体制の整備	ログファイアー製作講座の実施
対象課題	障がい者の間伐材活用木製品作成へ参加方法の検証、プログラム化	地域活動としての理解、協力の普及促進	持続可能な経済活動としての製品企画と販売体制の確立	活動意義の浸透、ステークホルダーや活動担い手の拡大
活動内容	飯山特産の木材を活用したログファイアー製作、クラフト体験の材料加工、梱包作業による障がい者の作業プログラム立案、実証	市民団体、県民、行政職員、学校等を対象とした本事業の説明会と報告会を開催/専門家によるセミナー開催/本事業内容やプログラムをとりまとめて公表/地域住民を対象にクラブづくりやログファイアーの交流会を実施	ログファイアーの製品化、製品の開発販売活動、パッケージデザイン等議論、継続的な体制構築を検討/教育・福祉施設、キャンプ場等を対象に、使用感、他製品の要望、林福連携に対する期待等をヒアリング	地域の林業関係者等を中心とした対象にログファイアーの製作講座を実施。
活動成果	事例調査、障がい者参加による実証作業の実施により手順要領、作業治具等から成る作業プログラムを作成	・地区役員説明、交流会の実施により、事業内容を関係者に広報周知 ・地域の祭りの旗竿活用等活用分野を拡大。	・燃焼試験等により、含水率等の基準・規格等の明確化。 ・ログファイアー説明コンテンツ、PRツールを作成。	・地区住民等を対象に講座を実施し、参加者のIターン人材や古民家建築事業者を活動担い手としてステークホルダー等に位置付け。
連携先	エコロジーオンライン、NPOここから、フォレストデザイン、飯山館、長野県内福祉施設	エコロジーオンライン、NPOここから、フォレストデザイン、飯山館、飯山市、長野県、森林組合、地区住民	エコロジーオンライン、フォレストデザイン、飯山館	フォレストデザイン、地区住民、地域林業関係者、古民家建築事業者
評価と課題	障がい者参加の検証の結果、作業要領の目途がたち、プログラムが作成された。今後プログラムの汎用性を高めることが課題。	情報発信を拡大することで関係者の理解が促進された。さらなる情報発信による活動の拡大が課題。	PRツールや製品規格など活動コアが形成されつつありPRも拡大している。運営体制が必ずしも十分でなく経営の自立が課題。	林業関係者などのステークホルダー化や活動の担い手形成が進行。さらなる拡大と活動への定着が課題。